

ふ風になつて仕舞つても困る。乍然譯者に深い理解のあることは疑もないことである。理解なくては斯くまで要點を摘出して行くことは出来ない。梗概紹介を以つて目的とせられてゐるならば上乘の出来榮えと稱せられるであらう。明快にして滯滞なき原文を讀む様な氣分をもつて譯文にも接せられるからである。各章下節の題は原著には無いのを大意を捕捉して新たに添附せられたことは讀者にとつて幸はせなことである。卷末に原著のと較べては簡ではあるが索引と、又別にロイス小傳及主要なる著作目録とがある。全卷に亘つて餘り少くはない誤字は再版には除かれることと思ふ。計吾に接して記憶を新たにせらるゝ際、本書の出たことを喜ばないわけにゆかぬ。(尾生光三郎)(四六判三二七頁並附録、麴町平河町五洛陽堂、發行定價壹圓參拾錢)

金剛心

文學博士 富士川 游著
醫學博士

近年特に親鸞聖人の教に隨喜する博士の各所の講演を輯録したのが此小冊子である。眞宗の信仰に入る筋道と其味ひ方の大要を平易に組織立て、百頁足らずの間に叙してある。僧侶でも宗學者でもないと斷はられた博士にしては、其内容に於て教義上の欠點もなく、如來廻向の三心を説く邊りは眞宗に對する理解の淺からぬことを示して居る。唯然し阿彌陀佛を文字通りの久遠の親と見たり、又我身が父母細胞の遺傳であるの故を以て、直に業種因縁の繁縛を脱し得ないものとする如きは、常に博士の思想の根底をなして居るヘツケル流の物質的一元論に基くものらしく、そこから如何にして正當な意味の罪惡觀が出るか、又それが如何にして往

生思想と調和し得るか危まれる。殊に宗教の要は唯感情や意思の安定を得る爲めに神佛の教として外から命ぜられたものに従ふに在るといふのは、眞宗の教旨としては勿論、所謂人格の統一の爲めにも果して幾何の價値があるうか。之を以て直ちに金剛心なりとするが如きは大に其當を失して居る。要するに全體として信仰の動機、旨趣が根本的に明瞭でないのは博士に對する吾人の期待に背くこと甚しい。之を以て在來の信者への誠めとするならばとにかく、博士の希望の如く智識階級に對する勸化としては全く無意味である。附録の眞宗綱領の文類は初心の人へのカテキズムとして便利であらう。(宇野圓空) 麴町區平河町五、洛陽堂發行 定價金五十錢。

言語及讀方の基本的研究

文學博士 小西重 直校閱
文學士 田中廣 吉著

著者は已に『小學校に於ける實際的教授法』、『實際的教授訓練の基礎』及『信仰を基とせる道德的陶冶の研究』等を出されてあつて、教育教授法に造詣の深い事は教育界に廣く知らるゝ所である。元來著者は此の『言語及讀方の基本的研究』の序文に云つて居るゝ通り、教授法の研究に於て從來一般に「習慣的方法の整理に始まつて自己の獨斷に終」つて居る様な態度を脱し、「客觀的に具體的事實に就て實驗又は統計をなし其の結果を歸納」して其處に教授法の原理を建設する事に膂心して居られるのだが、先づ讀方教授法の基礎として、各種の方面より斯かる客觀的研究を試みら